

センターコートなど17面補修

有明テニスの森公園

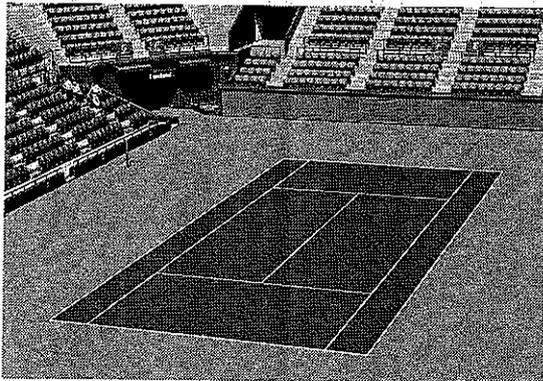
東京港頭発注の有明テニスの森公園（東京都江東区）のテニスコート補修工事がNIPPOの施工で順調に進んでいる。国際大会の会場となるロシアム・センターコートのほか、屋外16面のサーフェイスの張り替えがすでに完了した。米国デコター社のクッションコート「デコターフ」を採用しており、11面にわたる塗り作業などによって世界4大会の一つ、全米オープンと同じコートに仕上げた。センターコートは、日本が勝利した男子テニスの国別対抗戦「デビスカップ」や、女子の国際大会「東レバン・パシフィック・テニス」の舞台となった。

工事は、各コートの状況に応じて、クッション層から上の表層部（厚さ約35mm）や、路盤上層のベース部（約75mm）を補修する。対象はセンターコートと屋外の16コート計17面で、施工面積は1万3921平方メートル。工期は7月8日から10月28日。

センターコート（1158平方メートル）については、既存のサーフェイスをはがした後、路盤となる密粒度アスファルトコンクリートによる舗装作業を行った上で、デコターフを施工し、全面的に張り替えた。デコターフは、10



センターコートの不陸調整



サーフェイスの改修が完了したセンターコート

NIPPO

0%アクリル樹脂と特殊なゴム粒子によってコートに不可欠な弾力性を長期間維持できるのが特徴。全米オープンの会場・米国ナショナルテニスセンターなどに採用され、今回NIPPOが施工している。

デコターフは、下部の不陸層を含めて11層構造。「不陸層」（2層）、粒度を調整した特殊砂入りの「フィラー層」（1層）、大粒ゴムによる独特のクッション性がある「コバール」（3層）と「同II」（2層）、ボールのスピードを決める「カラートクスチ

平滑性追求、養生管理も徹底

「ヤール」（2層）、紫外線に強く、耐久性もある「カラートクスチ層」（1層）で構成する。

「国際大会の予定もあって、作業は遅らせられなかった」。NIPPOの工事担当者は、これまでの苦労をそう語る。養生が欠かせない塗り作業が多いため、「いかに早く塗り作業にたどり着くかがポイントだった」として、既存のサーフェイスの撤去を効率よく実施。工期に追われつつも、デコターフの施工では、レーキで液体を丁寧のばし、水張り試験の中で凹凸が見つかれば、定規を使って手作業でならし、平滑性を追求した。

センターコートは屋根があるものの、屋外コートの塗り作業は「天候に振り回された」という。強い日射による色むらが出ないよう塗り作業は早朝や夕方に実施し、養生管理にも神経をとがらせた。一方、今夏も局地的な集中豪雨が多発していたことで、10分予報などをこまめにチェック。少しでも降雨の懸念がある場合は作業を見送ったものの、工程を綿密に調整し、大会に使われるコートを含む17面の補修を完了させた。

有明テニスの森公園は、東京港頭が指定管理者となって東京都から管理を請け負っている。補修工事は同社も手厚くサポート。貸し出すコートや時間を調整し、使用制限を最小限にとどめつつ、作業時間を捻出した。「全米オープンと同じコートに仕上がっており、一般の方にもぜひ体験していただきたい」（東京港頭公園事業室）。公園では現在、「楽天・ジャパン・オープン・テニス・チャンピオンシップス2011」が行われている。